

インフルエンザ罹患に伴う 異常行動研究

2008/2009シーズン報告

平成21年度厚生労働科学研究費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業
「インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動の情報収集に関する研究」
研究代表者 国立感染症研究所 岡部信彦

研究班

研究代表者

- 岡部信彦（国立感染症研究所感染症情報センター長）

研究分担者（五十音順）

- 大日康史（国立感染症研究所感染症情報センター主任研究官）
- 谷口清州（国立感染症研究所感染症情報センター第一室室長）
- 宮崎千明（福岡市立西部療育センター長）
- 桃井真里子（自治医科大学小児科学教授）

報告の内容

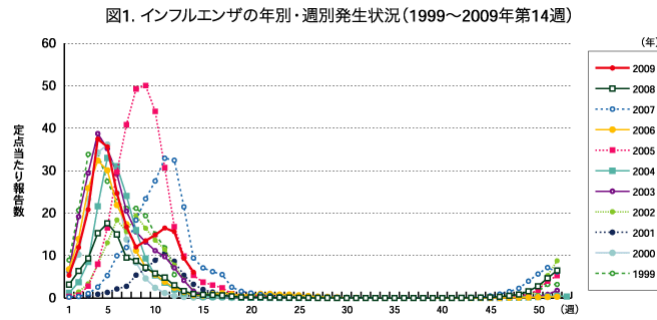
- インフルエンザ2008／2009シーズン
- 調査概要
- 重度の分析
- まとめ

3

インフルエンザ 2008／2009シーズン

4

図1.インフルエンザ患者報告数



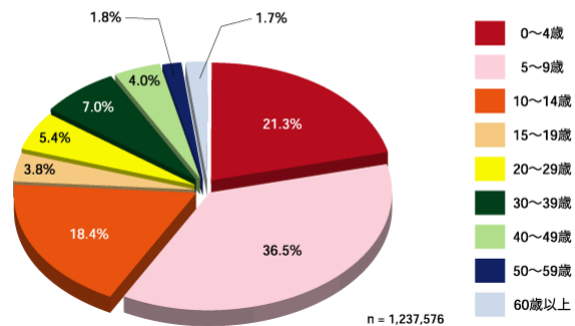
(2008／2009)

出典:発生動向調査

5

図2.年齢別インフルエンザ患者報告数

図4. 2008/09シーズンのインフルエンザ累積報告数の年齢群別割合(2008年第36週～2009年第14週)



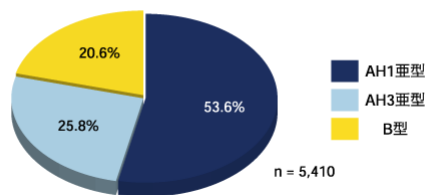
(2008／2009)

出典:発生動向調査

6

図3. 型別インフルエンザウイルス 分離の検出報告数

図5. インフルエンザウイルス型別分離・検出割合報告 (2008年第36週～2009年第14週)
(病原微生物検出情報: 2009年4月9日現在報告数)



(2008/2009)

7

調査概要

8

調査概要

- 重度の異常な行動に関する調査（**重度調査**）
 - すべての医療機関
 - 2006／2007シーズン：後向き調査
 - 2007／2008シーズン：前向き調査
 - 2008／2009シーズン：前向き調査
- 軽度の異常な行動に関する調査（**軽度調査**）
 - インフルエンザ定点医療機関
 - 2007／2008シーズン：前向き調査
 - 2008／2009シーズン：前向き調査

9

調査概要（重度）

- 調査依頼対象：すべての医療機関
- 報告対象：インフルエンザ様疾患と診断され、かつ、重度の異常な行動※を示した患者
 - ※飛び降り、急に走り出すなど、制止しなければ生命に影響が及ぶ可能性のある行動
- 報告方法：インターネット 又は FAX

10

インフルエンザに伴う異常な行動に関する報告基準

- インフルエンザ様疾患と診断され、かつ、**重度**の異常な行動を示した患者
- インフルエンザ様疾患
 - 臨床的特徴（上気道炎症状に加えて、突然の高熱、全身倦怠感、頭痛、筋肉痛を伴うこと）を有しており、症状や所見からインフルエンザと疑われる者のうち、下記の**いずれか**に該当する者
 - 次のすべての症状を満たす者①突然の発現、②高熱（38℃以上）、③上気道炎症状、④全身倦怠感等の全身症状
 - 迅速診断キットで陽性であった者
- **重度**の異常な行動
 - 突然走り出す
 - 飛び降り
 - その他、予期できない行動であって、制止しなければ生命に影響が及び可能性のある行動

11

重度の分析

12

表1.2008/2009分析対象データ

報告数			
重度	185	除外	対象
30歳以上		6	179

※このうち、「突然走り出す・飛び降り」については87例

13

図4.異常行動（重度）の発熱週と発生動向調査

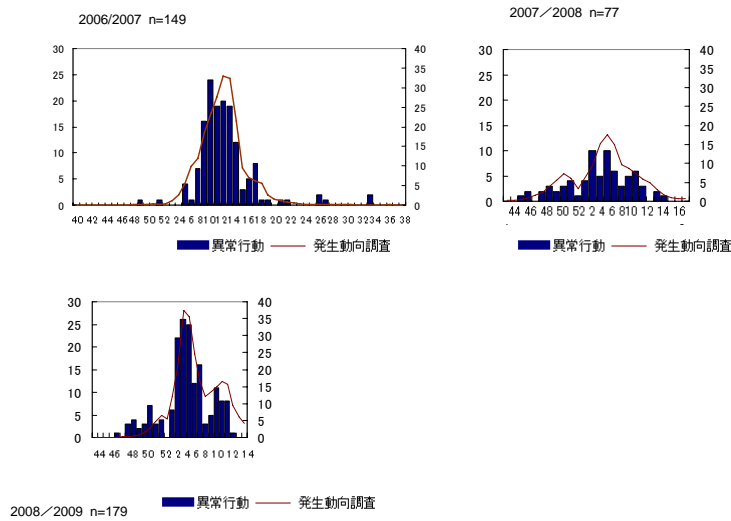
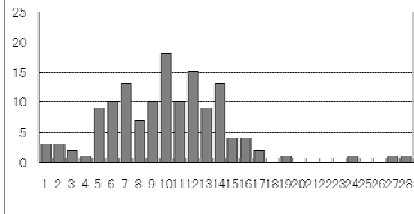
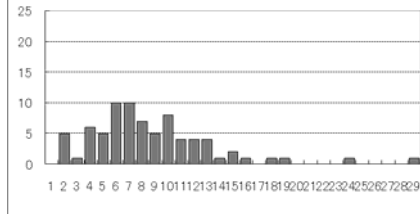


図5. 患者の年齢

2006/2007 n=137 平均値10.11 中央値10



2007/2008 n=77 平均値8.66 中央値8



2008/2009 n=179 平均値8.89 中央値8



図6. 患者の性別

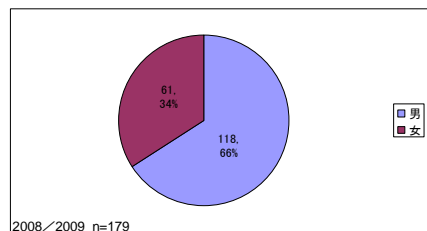
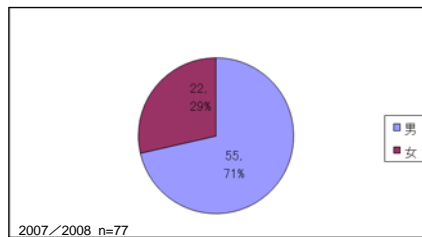
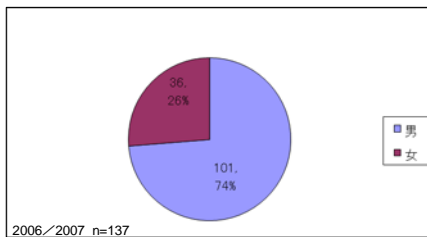
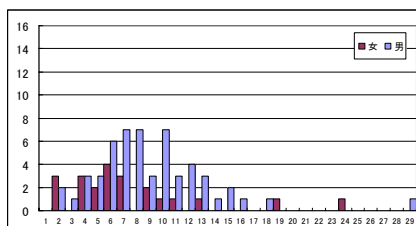


図7.患者の年齢と性別

2007/2008 n=77



2008/2009 n=179

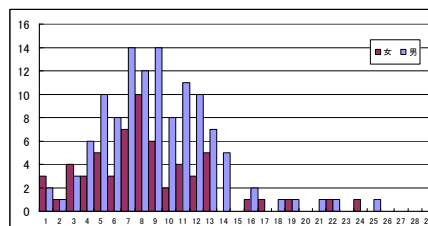


表2.発熱から異常行動発現までの日数

発現日	重度		走り出し、飛び降りのみ	
	n	%	n	%
発熱後1日以内	47	27.01	24	28.57
2日目	87	50.57	45	53.57
3日目	22	12.64	9	10.71
4日目以降	17	9.76	6	7.15
	173	100	84	100

(2008/2009)